

くちばしP「私の時間」論

——「うたわせて」にみる「わたし」と「うた」と「またー」の関係

島袋八起

誰でもきつとそうだったと思う。僕もまた、前評判もよ

く知らずにくちばしPの「私の時間」という歌を聴いたとき、不意打ちのように感動させられた。つまり心が揺り動かされた。「私の時間」という歌はステキだ。だけどそれでも、僕にとってその何が感動的かということについて語るとき、始めの手がかりは断片的だ。——歌いだしの「わたしは」というフレーズでひびく「ワ」の発音が楽しくてかわいい。サビの「さあ れんしゅう れんしゅう ゆーあーまいますたー」と歌っている声がかわいい。「まいますたー」という音のつらなりがかわいい。二番の「メッセでおしゃべりしてる あなたとあのコ」に嫉妬しているところがかわいい。——そんなふうに。これらの断片たちはすべて僕にとって真実であって、私的なものだ。けれどもこの私的な断片についてどう考えるのか、それを僕はこたとばという公的な表現手段をつかって語らなければならぬ。そのように僕は感じている。なぜ。他者とわかりあい

たいから？

この批評は、くちばしP「2007年10月22日20:12初音ミクオリジナル「私の時間」」(4分28秒 <http://www.nicovideo.jp/watch/sm1340413>)版の「私の時間」にもよびて書かれている。なお、歌詞は [wiki](http://www5.atwiki.jp/hmiku/pages/135.html)「初音ミク wiki」(<http://www5.atwiki.jp/hmiku/pages/135.html>)やブログ「ポーカーロイドの歌詞置場」(<http://010701070107.blog5.fc2.com/blog-entry-20.html>)で確認できると思う。

「私の時間」のメロディー構成は、大まかに「Aメロ→Bメロ→サビ→Aメロ→Bメロ→サビ→Cメロ→サビ」となっている。

さて、歌のタイトルはCメロの歌詞中に出てくる次のフレーズから取り出されていると思われる。「時間」ということばはこの場所にしか出てこないからだ。

同じ顔 同じ声 たった一つ違うのは
あなたとの出会い 私だけの時間

このフレーズは初音ミクが、自分の歌の練習Ⅱ調教をして
てくれている「ますたー」に対して「私は大量生産のボー
カロイドなので、どの初音ミクも同じ顔で同じ声を持って
いるんだけど、ただ他の初音ミクと違うのはあなたと出会
ったことだよ。そして、これは他の初音ミクが持たない、
私だけが持っている、あなたと過ごす時間なんだよ」とい
う意味で語っている箇所だ。

この意味を通じて、マスターではない私たちも、リスナ
ーとして同じようなメッセージを受け取ることができる。
単に「あなた」を「ますたー」に限定せず、初音ミクの歌
を聴いている自分をそこに想像的に位置させることでミク
と特別な関係を結ぶことができるからだ。ミクが私たちに
直接かたりかけているわけではないが、私たちは、想像力
を通してたやすくストーリーを自分の体験として感覚する
能力を持っているからだ。裏返せば、ミクは「ますたー」
に語りかける歌詞を通して私たちに語りかけている。「私
の時間」の感動の根底にはまずこのようなストーリー把握
がある。

ストーリーを組み上げる細部について少しだけ考えてみ
よう。具体的には、「私の時間」ということばの意味につ
いて考える。右に述べてきた「私の時間」ということばの
意味は、歌詞中に出てくる単語の語彙・文法や物語的な論
理関係を把握することで考えられている。つまり「私」と
は「そこらにいない女の子」で「目指せsuper idol」で「電
脳風味な見た目」で「ねぎー」の女の子である。これらは
すべて初音ミクの性質を切り取りながら示している。「あ
なた」とは「ゆーあーまいますたー」で「上手に歌わせて」
くれて「メッセでおしやべりしてる」というボーカロイド
のマスターの性質を示している。だがもちろん、歌詞の読
み取りとはそれだけの経路だけではないだろう。

Aメロの印象的な「うたうだけなら」というフレーズに
注目してみよう。このフレーズが耳をひくとすれば、「う
たう」という音のならば、まるで「た」の音を軸にして
鏡面で反転するように線対称のかたちをなしている点にひ
とつのフックがある。このフレーズに隣接している「わた
しは」もまた「わたしわ」という「た」の音を軸とした線
対称にちかいかたちをもっているため、「うたう」と「わ
たしわ」はお互いの時間的なちかさと「た」の音の一致お
よび線対称というかたちを通して、音による連想の関係を

結びあう。(ちなみに、同じような線対称のかたちはAメロにおいて「だれでもできる」「いない」「ちようきよう」Bメロにおいて「でんのうふうみなみため」||「うふう」+「みなみ」や「もしかしたら」「いちい」のように頻繁に出てくる。「た」の音を媒介にしている点で「うたう」と「わたしわ」の関係は他と比べて強いということが言えると思う。)だから、私たちが歌を聴くときに、「歌う」「私」という初音ミクの性質が強化されてリズムカルに感覚される可能性はあるだろうと思う。

このような、時間のちかさと音の一致とかたちによる捉え方で、ふたたびCメロの「同じ顔 同じ声」というブロックをみると、

おなじかお おなじこえ たったひとつ ちがうのわ
 あなたとの であい わたしだけの じかん

「おなじかお」から「じか」で始まり「わたしだけのじかん」でやはり「じか」で締めくくられているのがわかる。ここでの音の変化をたどると、まず「おなじかお」の「かお」が子音を軸に母音を変化させて「こえ」へ変形し「おなじこえ」というフレーズが導かれている。この歌詞にお

ける音と形式の連想の関係の一端を示していると言えるだろう。つぎに「たったひとつ ちがうのわ」は「た」と「の」の音の一致とかたちの類似を通じて「あなたとの」との音の連想による結びつきを強めている。ここでは「同じ」と「違う」の対比においてとくに「あなたとのであい」に表現的な重みが置かれると考えればよいだろう。

面白いのは「ちがうのわ」と「あなたとの」の、「わ」につづく「あ」の音がまるで「ちがうのわーなた」のように連結されて歌われているように聞こえる箇所だ。いつも僕はここで気になって耳をすませて「変だなあ」と笑ってしまうのだが、ここには「わたし」と「あなた」の融合への願いのようなものがあるのかもしれない。実際、音に注目すれば「わたし」と「あなた」は「た」の音によってしかつながれていないが、「あなた」をあえて「わなた」と発音してしまうチートをつかうことで「わ」の音が媒介となり、二者は接近することができる。こういう関係があつてこそ、初音ミク楽曲においては「わたし」と「あなた」の間に媒介としてある「た」の音つまり「うたう」ということばが、重要な表現をなすのだろう。さて、ここまで把握したところであの有名なサビをみてみよう。

さあ れんしゅう れんしゅう ゆーあーまいますたー
もっと もっと じょうずに うたわせて

重要な「た」の音に注目すると二カ所「ますたー」と「うたわせて」に含まれていることがわかる。ここでも「わたし」と「ますたー」の音の一致の関係は「た」の音によりつくられているが、さらに「ますたー」との関係において「うたわ」されることで「わた」という媒介音をもつことができていることが重要だ。たんに「わたし」が単独で「うただけ」（一番Aメロ）であれば、「た」の音でむすばれるにすぎず、事態として音による連想の強さがちがうだろう。

このように整理すると、「私の時間」とは、「あなた」＝「ますたー」が「れんしゅう」で「うたわ」せることで「し」や「た」や「わ」の音をとおして「わたし」とつながる時間であり、時にはミクの発音の具合によって「わ」が「あ」と連続してしまうような特別な関係が結ばれる時間でもありと把握することができる。

歌のメロディーにおいて和音や旋律やリズムの細部が、それぞれの形式の内部において相互に関係をなしつつ、歌表現の全体を構成していくように、歌詞においてもまた、

歌う人の声や歌詞の韻律や音の配置の細部の関係に、表現の構成の一端をもとめられる可能性がある。だがこの歌詞表現が、たんに個人の制作ではなく、作詞者であるマスターと歌い手であるミクとの共同作業によって、彼女の存在的な位置や独自の発音が考慮されながらもさに成立したのならば、「私の時間」が作品として美しく温かなかたりとして感じられることには根拠があるのではないだろうか。